

福岡・近畿パーキンソン病研究の結果 職業上リスク要因とパーキンソン病リスクとの関連

背景：様々な職業上のリスク要因とパーキンソン病リスクとの関連が報告されていますが、結果は一致しておりません。

方法：症例群は UK Parkinson's Disease Society Brain Bank のパーキンソン病診断基準に基づき発症後 6 年未満の患者 249 名としました。福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院、京都大学、京都市立病院、九州大学、久留米大学、大牟田病院、刀根山病院、南京都病院、和歌山県立医科大学でリクルートしました。対照群は福岡大学、大阪市立大学または宇多野病院に入院中もしくは通院中の患者で、神経変性疾患と診断されていない 369 名としました。性別、年齢、居住地、喫煙、教育歴を補正しました。

職業歴との関連

結果：職業歴との関連では、専門的・技術的職業で予防的な傾向を認めました。男女別に解析したところ、男性では、専門的・技術的職業の補正オッズ比は 0.22 (95% CI: 0.06-0.67) となり、統計学的に有意に予防的でありました。一方、女性では補正オッズ比は 0.99 (95% CI: 0.47-2.07) であり、関連を認めませんでした。

要因	Cases (n = 249)	Controls (n = 369)	補正オッズ比
専門・技術	20 (8.0)	45 (12.2)	0.59 (0.32-1.06)
管理職	36 (14.5)	47 (12.7)	1.20 (0.69-2.06)
事務	63 (25.3)	76 (20.6)	1.36 (0.91-2.04)
販売	19 (7.6)	36 (9.8)	0.87 (0.47-1.56)
サービス	12 (4.8)	22 (6.0)	0.80 (0.37-1.67)
保安	4 (1.6)	3 (0.8)	2.73 (0.56-14.86)
農林漁業	11 (4.4)	16 (4.3)	0.95 (0.41-2.15)
運輸通信	10 (4.0)	9 (2.4)	1.74 (0.65-4.74)
生産工程	39 (15.7)	48 (13.0)	1.11 (0.68-1.81)
機械運転	0	2 (0.5)	
建設	14 (5.6)	21 (5.7)	1.25 (0.59-2.60)

した。男女間の交互作用は統計学的に有意となりました ($P = 0.048$)。職業上の曝露では石・砂曝露で補正オッズ比が 1.98 (95% CI: 0.39-11.18) となりましたが有意ではありませんでした。その他の曝露はいずれも関連がありませんでした。

結論：日本人において男性のみ専門的・技術的職業がパーキンソン病に予防的であるのかもしれない。

出典： Tanaka K, Miyake Y, Fukushima W, Sasaki S, Kiyohara C, Tsuboi Y, Yamada T, Oeda T, Miki T, Kawamura N, Sakae N, Fukuyama H, Hirota Y, Nagai M, Fukuoka Kinki Parkinson's Disease Study Group. Occupational risk factors for Parkinson's disease: a case-control study in Japan. BMC Neurology. 2011; 11: 83.